

ちば里山カレッジ「次世代リーダー養成コース」実施報告書 (6)

特定非営利活動法人ちば里山センター

題名	ちば里山カレッジ「次世代リーダー養成コース」 第 6 回講義&フィールド研修「里山の資源化 4」 ～行政の立場から～
日時	平成 28 年 1 月 9 日 (土) 9:15～16:30
講師	講義:「千葉県の林業・林産物振興について」 講師:千葉県森林課森林政策室 副主幹 澤口 晶子 講義:「千葉県における木質バイオマスの現状について」 講師:千葉県森林課森林政策室 主幹 西野 文智 講義:「千葉県にあるせき悪地と克服法」・「潜在自然植生を活かした早期森林造成」 講師:技術士(森林部門) 樹木医 石谷 栄次 講義:「常緑広葉樹林への落葉広葉樹の導入について」 講師:(元)千葉大学研究員 学術博士 広永 勇三 フィールド研修:「千葉県緑化推進拠点施設の森林に学ぶ」 講師:技術士(森林部門) 樹木医 石谷 栄次、(元)千葉大学研究員 学術博士 広永 勇三
会場	千葉県緑化推進拠点施設 研修室&フィールド
出席者	受講生 51 名(欠席 9 名)・主催者 2 名・スタッフ 1 名
報告	9:15～10:30 講義:「千葉県の林業・林産物振興について」 千葉県の林産物の利用は昭和 30 年代の燃料革命の影響を受け、森林資源の利用は減少し、森林蓄積量は増加したが、利用の体制が整っていない。 10:45～12:00 講義:「千葉県における木質バイオマスの現状について」 千葉県の林産物の有効利用という点で木質バイオマスは有効な視点だ。小規模木質バイオマス発電は地域の実情に即した取り組みとして取り組みやすく、地域の資源を有効活用と地域への利益還元につながる。また、放置竹林を地域資源に還元する取り組みも検討課題となっている。 澤口、西野両講師の講義を受けて、質疑応答ではカーボンニュートラルを政策的に進める際の落とし穴、所有者不明の山林の解明の進捗、県産材の利用について、間伐材利用のボランティアな協力の在り方等の質問があり、受講生の里山活動への姿勢が明確になった。 13:00～14:10 講義:「千葉県にあるせき悪地と克服法」・「潜在自然植生を活かした早期森林造成」 千葉県緑化推進拠点施設は埋立地を緑化する拠点施設として 40 年前に創立された。農林業技術を応用した緑化技術を開発し、多樹種による複層林を作り出した。 14:20～15:10 講義:「常緑広葉樹林への落葉広葉樹の導入について」 15:20～16:30 フィールド研修:「千葉県緑化推進拠点施設の森林に学ぶ」 埋立地の生活環境の改善を目的に昭和 48 年から始めた埋立地の緑化は 40 年を経過し、緑化推進の目的および推進の進捗状況、海岸近くの常緑広葉樹林の育成状況、樹林の階層化の実現状況などを観察した。

添付資料（写真）

